

南宇和高校教職員一同 令和5年度文部科学大臣表彰受賞!!



愛媛
CATV
動画

1月16日付けて、令和5年度文部科学大臣表彰を南宇和高校教職員一同が受賞しました。

文部科学省ホームページには、「地域と連携したさまざまな活動を通して、地域の課題解決に自ら取り組み力を身に付けるとともに、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る教育活動を継続して実践されている」と、教育活動全てにおいて地域の方々との密な連携が図られていることが高く評価されました。

東京大学安田講堂で行われた表彰式に教職員を代表して出席した井上浩校長は、「教職員一同として受賞できたことが大変嬉しい。常に応援してくださる地域の方々や南宇和高校が連携した“チーム南宇和”が最大の強みであり、安心して南宇和高校に進学してもらえる教育活動を今後も展開したい」と力強く述べました。



▲表彰状と黄金の盾を手に、笑顔でガッツポーズを見せる南宇和高校教職員の皆さん

長年にわたり清掃活動を続ける奥村千鶴子さんが南海放送賞を受賞



▲清水雅文町長と記念撮影する奥村千鶴子さん

福祉活動や社会貢献活動で特に著しい業績をあげた個人・団体に贈られる「南海放送賞」を、奥村千鶴子さんが受賞しました。

阪神淡路大震災で被災し、町に帰郷した際、温かく迎え入れてくれた故郷の方々への恩返しの気持ちから21年間にわたり地域の清掃活動に励み、通学中の子どもたちに温かい声掛けをしながら見守り活動を継続するなど地域貢献する姿勢が高く評価され、今回の受賞に至りました。

2月27日付けて受賞した奥村さんは、「名誉ある賞をいただけて感謝しています。元気である限り、これまでやってきた活動を継続したいと思う」と笑顔で抱負を述べました。

交通安全表彰伝達式 緑十字金章・交通安全優良団体等表彰

2月28日(水)、多年にわたり交通安全活動に尽力された功労者に対して贈られる交通栄誉章「緑十字金章」と、積極的に交通安全を推進する功績のあった団体・学校に贈られる「交通安全優良事業所・学校表彰」の表彰伝達式が愛南警察署で行われました。

緑十字金章を受けた本多保固さんは、南宇和交通安全協会の会長も務めた経験などを振り返り「活動を続けていくに当たり、コロナ禍の影響もあって苦勞したときもありましたが、警察署や交通安全協会、地域の皆さまに支えられてきました」と笑顔で語りました。

交通安全優良学校として表彰を受けた久良小学校の山中広樹校長は、「久良地区の通学路は生活道と近く、狭い道も多くあります。その中で児童が事故なく過ごせるのは、児童・教員の力だけでなく地域の皆さまの見守りがあってこそだと思います」と話しました。

また、別日に「交通安全優良事業所」である大濱漁業株式会社への表彰状送付も行われました。



▲緑十字金章を受けた本多保固さん



▲交通安全優良学校として表彰された久良小学校の山中広樹校長

2/5 非常用仮設トイレの設営と備蓄について学ぶ 国保一本松病院で消防訓練を実施



▲愛南町消防団女性部から非常用トイレの設営についてレクチャーを受ける病院関係者

国保一本松病院で「令和5年度第2回消防訓練」が実施され、非常用仮設トイレの設営と備蓄について学びを深めました。病院では、大小合わせて4,000回分の非常用トイレを備蓄する計画を進めています。今回の訓練で、非常用トイレの設営について指導を受けたほか、体験を通して利用者目線での対応についてイメージを深めることができました。

訓練を終えた横前直樹^{なおき}技師長は、「トイレ問題は食糧よりも迅速な対応が求められるということが再認識できました。災害が発生した際には医療救護拠点としての役割を果たせるよう、非常用トイレをはじめ当院ならではの備蓄に努めていきたい」と話しました。

2/6 自然にふれあいながら仲良く収穫 船越・緑小学校合同でみかん狩り



▲自分で収穫したみかんを手に笑顔を見せる児童
(写真は保護者よりご提供いただきました)

令和5年度としては最後の回となる「山と海の学校の交流会」が開催され、船越・緑小学校が合同でみかん狩りを行いました。この交流会は、互いの学校の地域学習や児童同士の交流を目的として行われています。

今回は、「みかん山の自然に触れて楽しんでほしい」という保護者の厚意により、甘夏や愛南ゴールドの収穫体験が実施され、緑小学校から16人、船越小学校から11人が参加しました。中には木になっているみかんに触れるのは初めてという児童もあり、児童たちは貴重な体験を時間いっぱい楽しみながら交流を深めました。

2/8 大洲河川国道事務所主催 国道56号愛南地区舗装修繕工事現場見学会



▲見学を終えて最高の笑顔の皆さん

中川地区で行われていた国道56号愛南地区舗装修繕工事の現場見学会が、一本松小学校の1・2年生児童33人を対象に開催されました。

小型建設機械の操作体験や家庭用3Dプリンタの見学、高所作業車に乗って修繕したばかりの道路を上空から見るなど、貴重な体験をすることができました。5班に分かれて見学・体験を行った児童たちは、興味津々で質問を行い、地元の道路が修繕されたことについての学びを積極的に深めることができました。

見学の最後に児童たちは、交通規制解除間近の道路をキャンパスに思い思いの絵やメッセージを描き、見学の記念としました。



2/22 心豊かな人づくりをめざして 令和5年度愛南町公民館研究集会開催



愛媛
CATV
動画



▲地域・住民・公民館が連携する公民館の未来像について語る遠藤敏朗副代表理事

御荘文化センターで「令和5年度愛南町公民館研究集会」が開催され、公民館関係者をはじめ学校関係者、役場職員など84人が参加しました。

公民館の事例発表では、僧都公民館・中浦公民館から各種教室事業やボランティア活動の活動事例が紹介されました。また、事例発表の後は、「ふるさとの未来をつくる公民館活動」と題して、一般社団法人コミスクえひめの遠藤敏朗副代表理事による講演が行われました。

参加者は集会を通し、地域が一体となって人を育てていく拠点としての公民館の在り方について、理解を深めました。

2/23 実験に供された生命に捧げる感謝と弔い 南予水産研究センター魚介類供養祭



▲悪天候のため、うみらいく愛南の正面玄関に集まって供養の祈りを捧げる出席者の様子

うみらいく愛南で「南予水産研究センター魚介類供養祭」が執り行われ、愛媛大学の学生や教員等、約30人が出席しました。出席者は日頃から実験等に供している水産物の命に感謝するとともに、一人一人が丁寧に献花を行いました。

学生代表を務めた愛媛大学南予水産研究センター修士2年の大塚淳希さんは、水産科学の発展のために尊い命を捧げた生物に感謝と哀悼の意を表するとともに、「私たちは愛媛大学動物実験規則の精神を遵守し、実験の苦痛や使用数を最小限にとどめた上で、最大限の成果を出せるように努めていきます。その成果を生かし、地域の海を守り、豊かにしていくことが魚介類の御霊に報いる最善の道であると信じています」と、供養と決意の言葉を述べました。

3/1 卒業生80人が迎える門出の日 思い出と感謝を胸に、県立南宇和高校卒業式



愛媛
CATV
動画



▲3年間の思い出を胸に旅立ちの日を迎える卒業生

保護者や在校生、教員の皆さんの温かな眼差しに見守られながら、農業科13人、普通科67人、総勢80人の生徒たちが卒業の日を迎えました。

卒業生代表として登壇した橋本怜奈さんは、学業や学校行事、部活動などの思い出を振り返り、家族や後輩、先生方などへこれまでの感謝の気持ちを丁寧に語りました。最後に、共に学び舎を巣立つ仲間に向かって「旅立つ私たちの道は違っても、それぞれの場所で最高の花を咲かせてくれると信じています。一瞬一瞬の時間を大切に、私たちが人生を歩んでいきましょう」と述べ、橋本さんは答辞を締めくくりました。

緑地域自主防災会が実施されました



2月17日(土)、緑地区自主防災会の主催で地域の防災力向上を目的に避難訓練、防災講演会、炊き出し訓練が実施され、小学生や地区住民など約50人が参加しました。

避難訓練では家屋倒壊の可能性など危険箇所をチェックしながら、各家庭から緑小学校体育館前に集合しました。

緑公民館2階で行われた防災講演会では、宇和島カエルキャラバン協議会代表の林昭子^{あきこ}さんを講師に招き、防災カードゲーム『なまずの学校』にチャレンジ。災害時に発生するトラブルが紙芝居形式で出題され、ゲームを通して身近にある物を臨機応変に使用する防災の知恵を学ぶことができました。

カセットコンロやロケットストーブを使った炊き出し訓練では、限られた水を有効利用するため水を吸わせた白米をポリ袋に入れて炊飯。上手に炊けた白米と温かい豚汁を参加者全員で味わい、地域の防災意識の向上につながりました。

地域おこし協力隊 活動日記

「人と“つながる”こと」

こんにちは。農林課地域おこし協力隊の山本梓沙^{あずさ}です。私が愛南町に地域おこし協力隊として着任してから早くも半年が経ちました。この半年間とはにかく自分の知識を深めるべく、座学や実地も含め、さまざまな講習会や研修へ参加させていただきました。

地域おこし協力隊には自身の活動の決め方、インボイス制度や起業のための補助金制度等の金融系の講習会、県内外の地域おこし協力隊と交流を深めるための機会などさまざまな研修講座が用意されており、協力隊員は必要に応じて参加する事ができます。しかし私は「まずは愛南町を知ることが優先」と思い、ずっとリモートや町内で参加できる研修ばかり受けたり、ネット上で他の協力隊と話をしていたりしました。

しかし先日、先輩協力隊員の関根さんと松山での研修に参加した際に、いままでもったいないことをしていたなと感じました。研修会場に集まった県内各地の協力隊員の方達と実際に顔を合わせて会話すると、その人の表情や声色が



ら気持ちを感じ取れるだけでなく、すぐに仲良くなり、研修が終わった後も「今度愛南町遊び行くね!」「縁あって同じ愛媛県で活動する仲間同士、なにかあったら連絡してね」など、文章だけのハードなやりとりとは違い、温かみを伴った話ことができました。SNSやネットが発展した現代は、愛南町から遠く離れた場所にいる人とも簡単に連絡をとることができますが、やはり実際にお会いして話をすることが一番良いコミュニケーション方法であることを実感しました。

今後は積極的に外に出ることを意識しつつ、得た知識とスキルを活かして少しずつ人の役に立っていくことができたらいいなと思っています。